

令和2(2020)年度の出来事から

公文書室長 広瀬茂久

2度に渡る緊急事態宣言を通して、「ウイルスは“付度”してくれない」ことを痛感させられました。5月の連休明け頃から第1波が下火になり、夏以降には通常の生活に戻れるのではないかと希望的観測も出始めたところで、新内閣の重点政策「GoToトラベル」がスタートしました。しかし、これがフライングになり、「GoToトラベル」の導火線になってしまいました。私たちは大学の方針に忠実にZoom会議・時差通勤・在宅勤務を組み合わせ「3密」(ウイルスにとっては3蜜)を避け、業務を遂行してきました。その中で、印象深かった出来事を以下で紹介いたします。よく効くmRNA型ワクチンが驚異的短期間で実用化され、その開発者のユニークなキャリアや開発秘話と相まって、私たちを勇気づけてくれています。COVID-19パンデミックの経験をいかにアーカイブし後世に伝えるか；これからが私たちの出番です。

1. マスク不足

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が拡大し始めるとマスク不足が深刻になり、資料館の公文書室スタッフの間でマスクの入手法がよく話題になりました。WHOは当初「マスクによる予防効果はほとんどない」と言っていますが、それでも心配になるのが普通です。マスク無しでは通勤電車にも乗れません。恋文ならぬアベノマスクに期待して郵便受けを覗く毎日でした。そんな時に非常事態宣言が発令され、それを受けて完全な在宅勤務となりましたのでマスクが無くても過ごせるようになりました。気持ちが楽になり精神的ストレスから解放されたのは大きかったと思います。

2. 在宅勤務とその影響(図①)

2020年4月7日に7都府県に緊急事態宣言が発令されると、翌4月8日からは「勤務等記録簿」上は“出勤免除”となり、5月末まで完全なリモートワークとなりました(宣言解除は5月25日)。この間、[1]私は原稿書きに集中し、発掘!東工大の研究と社会貢献シリーズのNo.6『ダイヤモンドと東工大—ダイヤモンドに新しい輝きを添えた研究者たち』を作成し、[2]他のスタッフは遅れ気味だった目録の整理、古い学内誌の目次作成、録音テープの文字起こし等を行いました。6月からは出勤免除という用語は使われなくなり、通常の出勤と“在宅勤務”の組み合わせと



① 新型コロナウイルス感染者数の推移と公文書室の業務。

非常事態宣言発令期間は東京都の場合；青太実線は1週間平均；在宅勤務の割合は教員系と事務系、及び担当業務内容によって異なる。

なり、徐々に出勤の割合が増えていきました。博物館は万全の感染防止対策を講じたうえで、10月1日に再開にこぎつけましたが、資料館はスタッフが少なく、「在宅勤務による実働人数減」と「開館」を両立させることが出来ず不本意ながら4月7日に閉館したままの状態が続いています。せめてもということで、博物館の開館に合わせて博物館が入っている百年記念館の1階入り口の一角を利用してミニ展示“資料館提供『今月の一枚』(2020年3月～10月分)”(詳細は後述)を行いました。

恒例となっていた部局訪問(対面での文書移相談や各部局 図書館の状態把握)はできませんでしたが、後回しにしてきた目録作成や検索用の目次・キーワードの作成などは順調に進めることが出来ました。

3. スペイン風邪の記録

益一哉学長(新型コロナウイルス感染症対策本部長)から「100年前のインフルエンザのパンデミックの際の本学の対応等に関する記録を探して欲しい」との依頼がありました。資料館の存在をアピールする良い機会と思い、はりきって「年史」等を調べたのですが、なかなか関連記事は見つかりませんでした。当時の記録は1923年の関東大震災で焼失し残されていないのだろうと半ば諦めながら最後に手にした「東京高等工業学校一覧」に短い記述が見つかり、「大正8年(1919)～9年(1920)にかけて悪性感冒(インフルエ



② 景德鎮陶磁大学 110 周年記念式典 (2021.10.20)。左：野外スクリーンに映し出された東工大 益一 学長のビデオメッセージ。

ンザ、スペイン風邪) が 2 度猛威を振るったが、幸い休校せずに乗り切った」ことが分かりました。在学生約 1000 名の内、100 名以上の学生が罹患したようです。

4. 祝景德鎮陶磁大学 110 周年

次のような 1 通の Email が中国から届き、驚きの声が上がりました。9 月 22 日のことです：“私は景德鎮陶磁大学・国際交流センターの胡一超と申します。添付の招待状にありますように、景德鎮陶磁大学は 2020 年を持ちまして、開学 110 周年 (1910～2020) になります。本学は東京工業大学と古くて長い歴史を持っております。中国の民国時代に、景德鎮陶磁大学の前身と言われる「中国陶業学校」が創立される際に、当時東京高等工業学校から帰国した国費留学生の張浩 (1907 年卒業) をはじめ、鄒如圭 (1913 年卒業)、舒信偉 (1918 年卒業)、章繼南 (1922 年卒業)、汪璠 (1930 年卒業) から 5 人は 1912 年～1951 年の間に、本学の学長を担当していました。東京工業大学のお陰様で、景德鎮陶磁大学は現在までの発展を遂げたと言っても、言い過ぎではないと思っております。…東京工業大学の学長と関係者の方々に、110 周年記念祝典 (10 月 20 日) にご出席いただきたく願っているのですが、新型コロナの影響で、実際にお越しいただくのは難しいでしょう。その代わりとして、貴学の学長から祝辞の手紙或いはビデオを送っていただければ、非常に有難いと思います…”

本学で学んだ留学生が一つの大学の設立に関わり、その大学では合わせて 5 名もの本学出身留学生が帰国後に学長を務めたというのです。さっそく本学の国際交流課や教務課と協力して調べてみますと確かに窯業科に在籍したことが確認でき成績も一部は残っていました。古い卒業アルバムには彼らの肖像写真と実験・実習風景が載っていました。教員としては板谷波山、学生仲間には将来著名な陶芸家になる河井寛次郎や浜田庄司らがいて、恵まれた教育環境だったと推測されます。これらの情報をもとに、国際交流課と教育革新センターが協力してビデオメッセージを作成し、先方の要望に応えることができました (図②)。第 2 代校長の手島精一が東アジアからの留学生を積極的に受け入れる努力をした結果、当時の本学は留学生にとって魅力的で、文部省直轄学校では留学生が最も多かったことが納得できました (留学生割合: 22% ! ; 佐藤由利子・村松晶子, 「東

京工業大学における戦前期の留学生受け入れ」、『アジア教育史研究』28・29 合併号, 25-42 頁, 2020 年)。

5. ミニ展示 (10/1～12/25)

コロナ禍の第 2 波が沈静化に向かっていた 10 月に、落ち込んでいた経済活動を活性化するために「GoTo イベント」が開始されたのを受けて、博物館の一般公開が再開されました。これに合わせて、私たちがミニ展示を行いました③。資史料館・公文書室では、2015 年 10 月から、『今月の一枚』と題して、月替わりでそれぞれの月に関連した東工大の過去・現在の出来事を写真やイラストで紹介してきました。これまでに 66 枚制作し、著名人と東工大の関わりやキャンパスの変遷など、懐かしい場面や意外な話題を提供してきています。それらの中から比較的新しいものを 8 枚展示しました。本学の活動を後世に残すべく資料整理に取り組む中で見聞きした興味深い話題を今後も視覚的な『今月の一枚』として提供していきたいと思っております。本学への来訪者及び本学で学び、働く皆さんの目に留まれば幸いです。



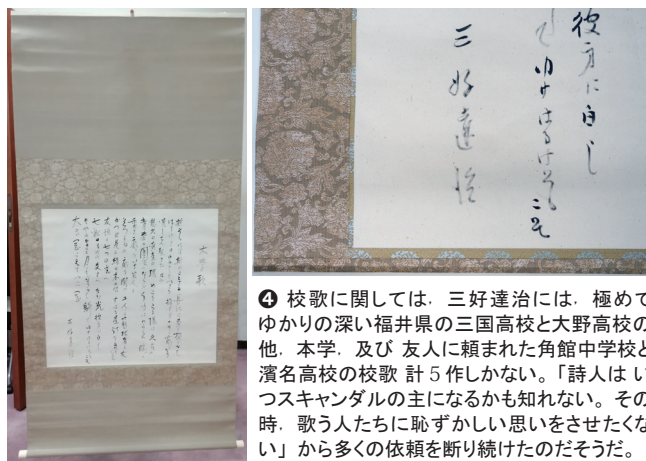
③ ミニ展示の様子 (2020.10.1～2020.12.25)。

7. 大学歌が響く旅立ちの季節に寄せて

1 年ほど前の話です。学長室には以前から三好達治の直筆による大学歌が飾られています (東工大クロニクル No. 450, p. 17, Jan. 2010)。この額装の書とは別に、学長室隣の書棚から掛け軸にした書が見つかりました。これも三好達治の直筆によるものか否か調べてほしいとの依頼がありましたので、写真に撮って、「福井県ふるさと文学館」(能筆家として

有名だった三好達治の作品を積極的に収集)の学芸員の方に見てもらい確認することができました④。

調査の過程で、〔1〕三好達治の書には落款(サイン)が有るものと無いものがあり、有るものは自信作であること、〔2〕彼は、降るような校歌の注文をかたくなに断っていたことを知りました。そんな中、三好達治が例外的に本学の大学歌を作詞した背景には、親交のあった伊藤 整(1949年に本学に着任し、英語を教えるかたわら小説家・文芸評論家として活躍)による懇願があったようです〔百年史 通史 p. 799-800; 柏木隆雄, 大手前大学論集 15, 43-65, 2015〕。

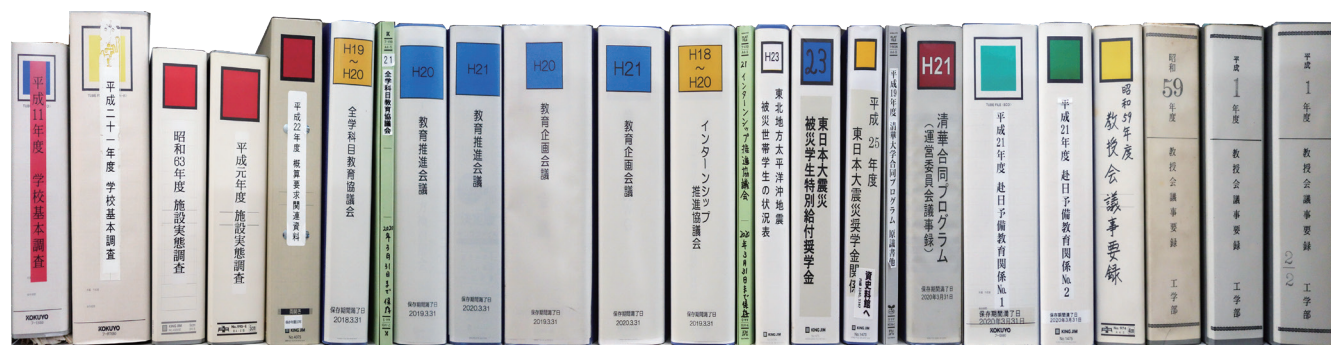


④ 校歌に関しては、三好達治には、極めてゆかりの深い福井県の三国高校と大野高校の他、本学、及び友人に頼まれた角館中学校と濱名高校の校歌計5作しかない。「詩人はいつスキャンダルの主になるかも知れない。その時、歌う人たちに恥ずかしい思いをさせたくない」から多くの依頼を断り続けたのだそうだ。

令和2年度(2020)に受け入れた特定歴史公文書等のリスト

法人文書ファイル名	作成又は取得者
平成元年度規則制定改廃	庶務部庶務課法規掛
平成11年度学校基本調査	総務部庶務課広報調査掛
平成21年度学校基本調査	総務部評価・広報課 広報・社会連携グループ
昭和63年度国立学校施設実態調査報告書	施設部企画課企画掛
平成元年度国立学校施設実態調査報告書	施設部企画課企画掛
平成22年度収入・支出概算要求に関する文書	財務部主計課予算グループ
平成19～20年度全学科目教育協議会	学務部教務課教育企画グループ
平成21年度全学科目教育協議会	学務部教務課教育企画グループ
平成20年度教育推進室教育推進会議	学務部教務課教育企画グループ
平成21年度教育推進室教育推進会議	学務部教務課教育企画グループ
平成20年度教育推進室教育企画会議	学務部教務課教育企画グループ
平成21年度教育推進室教育企画会議	学務部教務課教育企画グループ

法人文書ファイル名	作成又は取得者
平成18～20年度インターンシップ推進協議会	学務部教務課教育企画グループ
平成21年度インターンシップ推進協議会	学務部教務課教育企画グループ
平成23年度東北地方太平洋沖地震被災世帯学生の状況表	学務部学生支援課支援企画グループ
平成23年度東日本大震災被災学生特別給付奨学金	学務部学生支援課支援企画グループ
平成25年度東日本大震災被災学生奨学金申請・採用関係	学務部学生支援課支援企画グループ
平成19年度清華大学合同プログラム原議書	学務部留学生課
平成21年度清華合同プログラム運営委員会	国際部留学生交流課事業推進グループ
平成21年度赴日予備教育1	国際部留学生交流課交流推進グループ
平成21年度赴日予備教育2	国際部留学生交流課交流推進グループ
昭和59年度工学部教授会1	東京工業大学工学部庶務掛
昭和59年度工学部教授会2	東京工業大学工学部庶務掛
平成元年度工学部教授会1	東京工業大学工学部庶務掛
平成元年度工学部教授会2	東京工業大学工学部庶務掛



⑤ 令和2(2020)年度に受け入れた「特定歴史公文書等」の外観。

公文書室 業務日誌（抄）

年	月	日	業務内容	
令和2 (2020)	4	8	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大防止のため、完全在宅勤務の開始〔～5/31まで〕 在宅業務内容：①工業大学新聞（東工大の学生新聞）の索引作成、②東工大クロニクルの目次作成、③工学部教授会資料の目次作成、④蔵前工業会誌の目次作成、⑤テープ起こし	
		7	28	教務課の木村公優氏と蔵前時代の絵葉書収集について情報交換
	8	20	移転先候補地（すずかけ台キャンパス）の下見	
		25	金子宏直 准教授 & 毎熊 那々恵氏と「祈りの花瓶プロジェクト」の打合せ	
	9	31	木村公優氏と蔵前時代の教科書「前田松韻文講述『建築沿革』」の内容について調査・検討	
		3	内閣府公文書管理課へ特定歴史公文書等の保存及び利用の状況報告に係る調査票を提出	
		11	職員組合関係者と古い資料の移管について打合せ	
	10	28	遠山 啓 日記抄5冊の扱いについて抄録者の友兼清治氏と協議 景徳鎮陶磁大学5名の学長について本学留学時代の調査結果を国際連携課 森田英夫グループ長に回答	
		1	～12/25：ミニ展示「今月の一枚」（総集編、百年記念館1F入口）	
		12	「発掘！東工大の研究と社会貢献」シリーズNo.6『ダイヤモンドと東工大』発行	
	11	26	留学生交流課と法人文書移管・廃棄について打合せ	
		2	佐々木 泰志 事務支援員 着任	
		10	科学技術史研究会「火ゼミ」で資史料館・公文書室を紹介（Zoom開催）	
		12	3	多久和 理実 准教授と戦前期の中国からの留学生に関する資料調査
			7	公文書室利用規程改正案の内閣総理大臣同意協議書提出（12/22 同意回答 受領）
		22	広報課より法人文書移管	
		24	企画・評価課より法人文書移管	
	令和3 (2021)	1	5	主計課より法人文書移管
			8	留学生交流課より法人文書移管
		2	3	令和2年度 資史料等審査部会を開催
25			すずかけ台への移転スケジュールに関し施設運営部とZoomで打合せ	
3		9	～10：アーカイブズ研修Ⅱ（オンライン）受講	
		31	「公文書室だより」No.6 発行	

寄贈資料一覧 & 資史料館からのお知らせ

◆ 下記資料を寄贈いただきました（2020年4月から2021年3月受領分）。

寄贈者	資料名
福長 脩	ヒマラヤ遠征報告書
生協本部	入学記念アルバム10冊（1985～2002年）
すずかけ台図書館 GP	戦前写真パネル56枚及び「長津田地区の使用計画」（オレンジ本）
三好 信浩	「産業教育学」（風間書房、2020）
慶雲会（慶伊富長研究室 同窓会）	懐かしき日々 --- 慶伊富長先生を偲んで
水野 裕彦	東工大関連資料データ（挺身隊、大和寮、B29エンジン関係他）

寄贈者	資料名
出口 弘	21世紀 COE 関連冊子、海外の大学等との協定書等
二羽 淳一郎	退職記念誌「東工大の23年間を振り返って」
井関 孝善	FD部誌「ダブルサークル」7冊
友兼 清治	遠山啓：日記抄①～⑤
多久和 理実	姫路科学館収蔵 旧制姫路高等学校コレクション物理実験機器 資料
藤村 修三	DVD "Im Cace Series by Tokyo Tech"

◆ 公文書室入口（本館3階奥）にパンフレット棚を設置し、「発掘！東工大の研究と社会貢献」、「資史料館とっておきメモ帳」を配布しています。百年記念館1階と合わせてご利用下さい。「今月の一枚」も掲示しています。

東京工業大学公文書室だより 第6号 2021年3月31日発行

編集・発行 東京工業大学博物館資史料館部門公文書室

152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1, E3-12 TEL 03-5734-3347

E-mail centshiryou@jim.titech.ac.jp URL <http://www.cent.titech.ac.jp/indexArchives.html>